



新四国八十八ヶ所霊場

四国霊場にあやかり設置された
八十八カ所の石仏や歌碑

四国八十八箇所は四国全県にまたがって八十八カ所に置かれた空海(弘法大師)ゆかりの札所の総称で、八十八カ所を巡る巡礼者はお遍路(へんろ)さんと呼ばれ、観光地としても有名です。これに対し、新四国八十八カ所は天塩から幌延の熊越峠を経て、豊富に至るまでの間に設置された霊場で、天塩には寺院や道端に1番から23番までの霊場が置かれていました。

新四国八十八カ所霊場は昭和11年(1936年)5月に、天塩町の実業家で戦前には道議会議員を務めた中田鶴吉氏が中心となり、四国まで霊場巡りに行くことができない人のために設置されたもの。四国のように寺院を巡るものではなく、本尊をあらわした石仏や御詠歌の碑に番号を振って霊場としたのが四国とは大きく異なる点です。

現在、天塩町内には23番中22番(14番は欠番)までの霊場があり、1番から8番までは山手通3丁目の寿養寺境内、9番から13番までは新地通7丁目の教信寺、15番から18番までは新地通9丁目の妙法寺、19番から23番までは川口基線の馬頭観音祠のそばに設置されています。また、幌延町にあった24番から37番、40番、41番、45番、47番、57番の霊場は豊富温泉に集められ、豊富温泉大師堂境内には今も40以上の霊場が存在しています。

開設当時は各霊場を巡る巡礼者も数多く存在した新四国八十八カ所ですが、歳月の経過とともに利用者は減少し、昭和50年(1975年)頃には毎年春に開催される豊富温泉大師祭に参拝者が訪れる程度になってしまいました。残念ながら、今は八十八カ所すべてを回ることはできませんが、中田氏の功績は天塩町の歴史に刻まれています。

見どころ

新四国八十八カ所は元々、道端の石仏や歌碑を利用して設置したため、時間の経過とともに行方が分からなくなってしまったものもありますが、天塩町内の寺院や道端には今も22霊場が設置されています。

ポイント

八十八カ所霊場の本場は四国ですが、全国には至る所に八十八カ所が存在し、巡礼の旅は日本の文化となっています。このうち、小豆島(香川県)、知多四国(愛知県)、篠栗四国(福岡県)は日本三大新四国霊場と呼ばれたこともあり、北海道にも留萌管内以外に新四国八十八カ所が設置されています。

五感で感じる！ 風土資産の魅力



北海道八十八ヶ所の御本尊は、運慶・快慶以来の慶流派を日本でただ一人継承する、京都の大仏師松本明慶師が制作されました。

北海道に新たな文化と信仰が生まれるようにとの願いが込められています。

■ 基本情報 (R1.5)

問い合わせ：天塩町商工観光課観光係
TEL：01632-2-1001